

# 令和5年度放射線安全取扱部会年次大会（第64回放射線管理研修会）

## アンケート調査のまとめ

令和5年度放射線安全取扱部会年次大会実行委員会

### はじめに

令和5年10月26日（木）、10月27日（金）の2日間にわたり、令和5年度放射線安全取扱部会年次大会が富山国際会議場において開催された。年次大会実行委員会では、参加者の動向を把握し、今後の部会活動や大会運営の充実を図るため毎年アンケート調査を実施している。今回は対面開催であったが、オンライン時にWEBでのアンケート回答に切り替えたことを踏襲して実施し、参加登録者238名のうち19名から回答を得た（回答率8%）。その結果を以下に報告する。

### 1 年次大会について

今大会の各イベント・運営（構成、開催の時期、会場等）への満足度についての5段階評価（5：満足、4：やや満足、3：普通、2：やや不満足、1：不満足）及び大会への意見やコメントの記載をお願いした。図1に各イベント等に対する評価内訳及び評価平均点を示した。

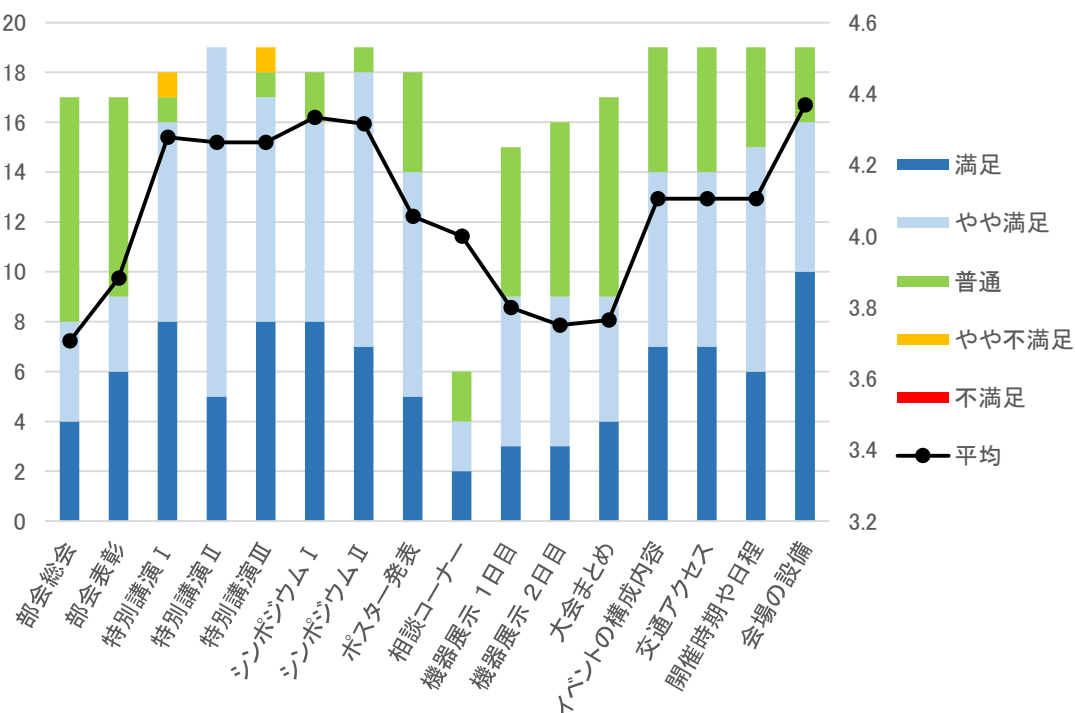


図1 年次大会各イベント・運営の評価内訳及び評価平均点

アンケート回答数が少なかったが、回答内での評価点は各イベント・運営で4.0前後であり、おおむね全項目でやや満足していただけたようである。今回は対面での現地開催であったがコロナ感染症の予防の観点より交流会を見合わせた。次回以降の交流会の開催希望については、約7割弱が希望、2割強が希望しない、1割がどちらでもよいとの回答であった。飲食を伴わないマスク着用の交流会の提案が寄せられた。

開催内容、運営に関する意見やコメントは、一部要約すると以下の通りであった。

- ・ポスター発表数が増えるとよい
- ・会員・非会員で参加費を変えると会員が増えるのではないか
- ・要旨集は印刷媒体があるほうがよい
- ・要旨集を発行しない旨をHPで告知してほしい
- ・要旨集のPDFにマーキングや書込み等の注釈を入れることができるようにしてほしい
- ・2日目が13時に終了して良かった、次回からも希望する

その他、

- ・放射線安全管理に関する情報を得られ有益な研修会だった
- ・久しぶりの対面開催を楽しんだ

といった対面開催で満足していただけたコメントや運営側への慰労のコメントもいただいた。

## 2 放射線安全取扱部会の活動について

### 2-1 興味のあるテーマ

興味のあるテーマとして選ばれたものを図2-1に示した。最も多かったのは例年通り「教育訓練」、次いで「安全管理状況の点検」「設備・機器の品質管理」であった。以下、「緊急時の対応」「記帳・記録」「主任者の地位」「放射線利用」「廃棄物処理」「社会貢献」「諸外国の動向」「内部被ばく」の順であった。これらの項目は例年通りの選択肢からの回答であった。その他の自由記載では、「放射線教育や連携、他機関からの利用など、今後の放射線施設のあり方について参考になる事項」との回答があった。

### 2-2 支部活動への要望

支部にやってほしい活動を図2-2に示した。「研修会（講習会）」「見学会」が多く、コロナ明けの世相を反映した対面で実施できる活動が望まれる傾向がみられた。

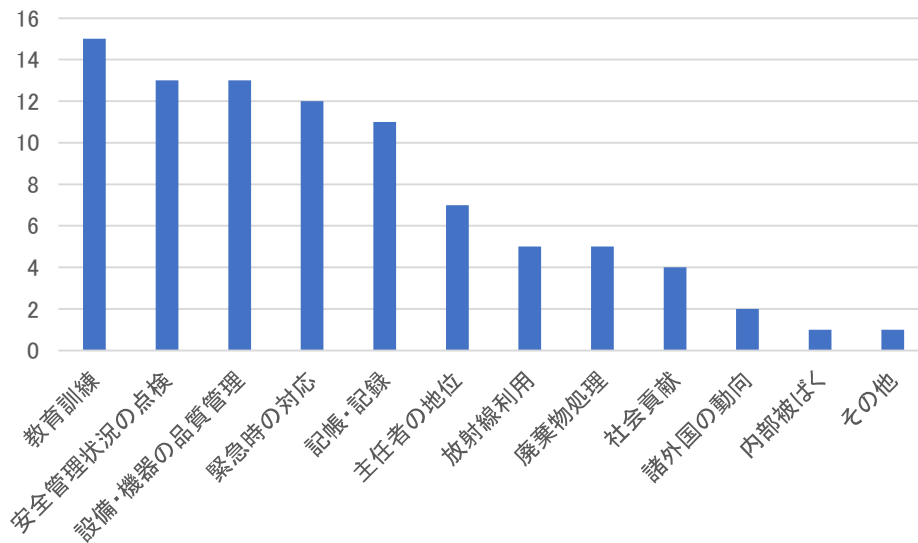


図2-1 興味のあるテーマ

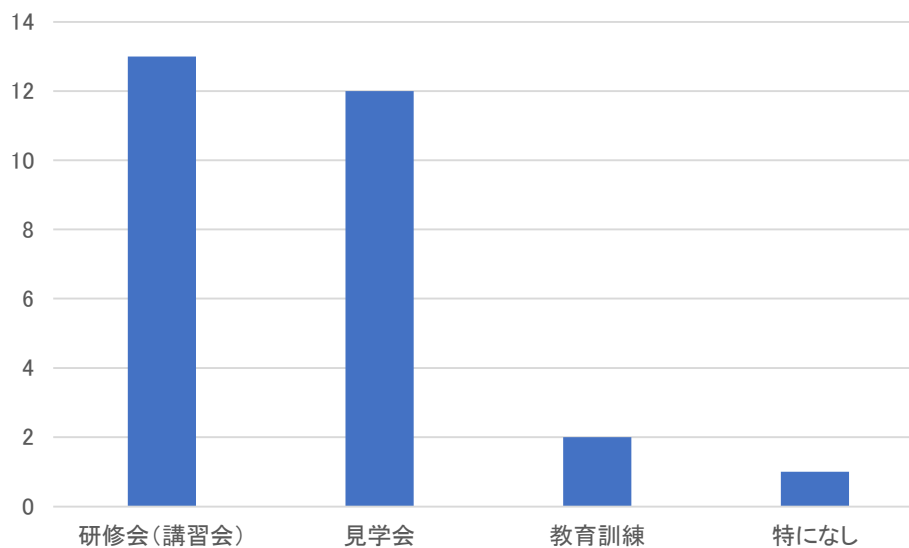


図2-2 支部にやってほしい活動

### 3 参加者について

#### 3-1 年齢

年齢構成は、20歳代 5%、30歳代 21%、40歳代 10%、50歳代 53%、60歳代以上 11% であり、50歳代が半数以上を占めた（図3-1）。

#### 3-2 所有免状

複数回答は加算して集計した。所有免状は、第一種放射線取扱主任者が 67%、第二種放

放射線取扱主任者 8%、第三種放射線取扱主任者 4%、作業環境測定士 4%、薬剤師 13%であった（図3-2）。

### 3-3 身分

身分は、一般職 42%、管理職 32%、教育研究職 26%であった（図3-3）。

### 3-4 会員の有無

日本アイソトープ協会員は 74%（内、放射線安全取扱部会員は 53%、非部会員は 21%）、非協会員は 26%であった（図3-4）。

### 3-5 参加頻度

参加頻度は、毎年参加が 53%、隔年参加が 10%、時々参加が 21%、初めて参加が 16%であった（図3-5）。

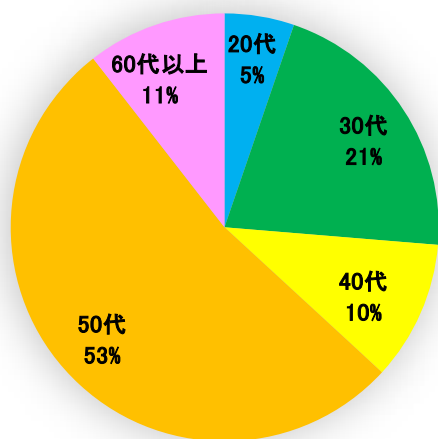


図3-1 年齢構成

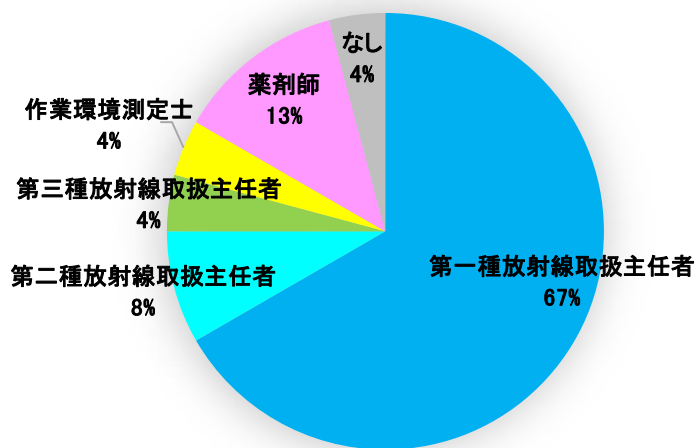


図3-2 所持免状

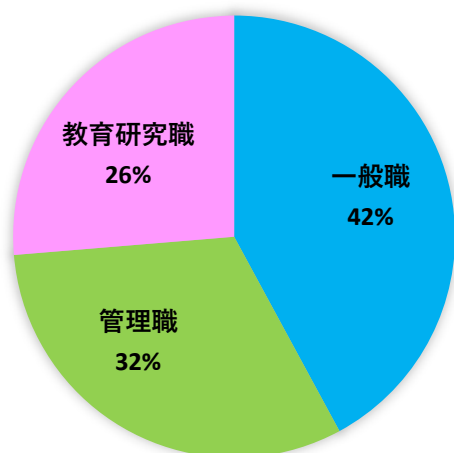


図3-3 身分

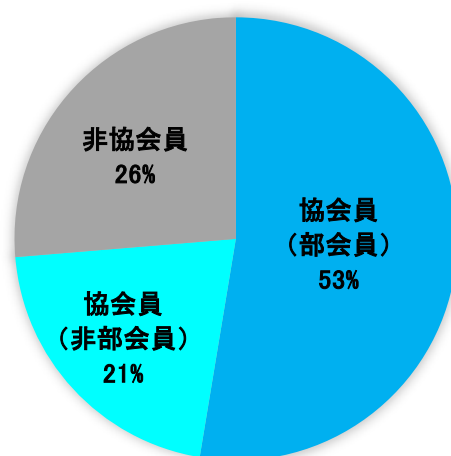


図3-4 会員の有無

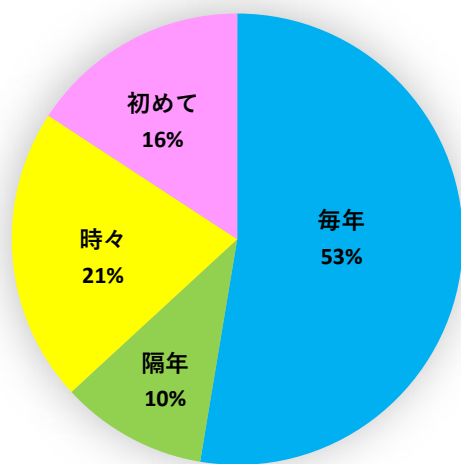


図3-5 参加頻度

#### 4 参加者の所属事業所について

##### 4-1 事業内容

教育機関が 53%、民間企業が 37%、研究機関が 10%であった（図 4-1）。

##### 4-2 使用形態

複数回答は加算して集計した。許可使用が 85%で大部分を占め、届出使用が 10%、使用していないが 5%であった（図 4-2）。

##### 4-3 施設

複数回答は加算して集計した。非密封 RI 施設が 34%、密封 RI 施設が 29%、放射線発生装置が 17%、設計認証機器が 11%、非破壊検査が 6%、使用していないが 3%であった（図 4-3）。

##### 4-4 所在地

北海道 0%、東北 5%、関東 37%、中部 16%、近畿 26%、中国・四国 11%、九州 5%であった（図 4-4）。

##### 4-5 放射線業務従事者数

20 人以下が 16%、20~100 人が 47%、100~300 人が 26%、300 人以上が 11%であった（図 4-5）。

##### 4-6 選任主任者数

1 人が 37%、2 人が 32%、3 人が 10%、4 人が 5%、5 人以上が 11%、設置無しが 5%であった（図 4-6）。

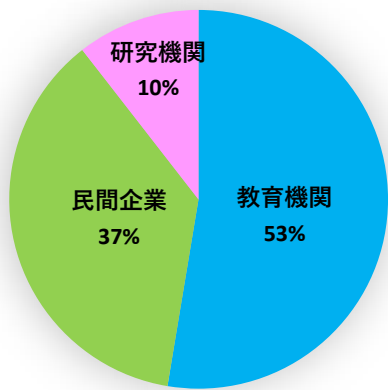


図4-1 事業内容

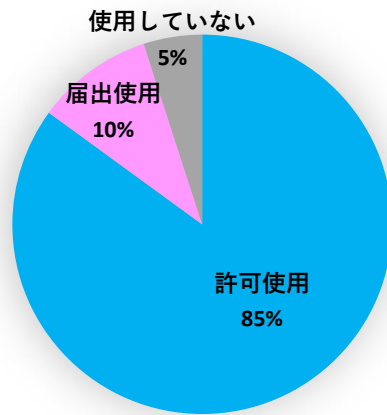


図4-2 使用形態

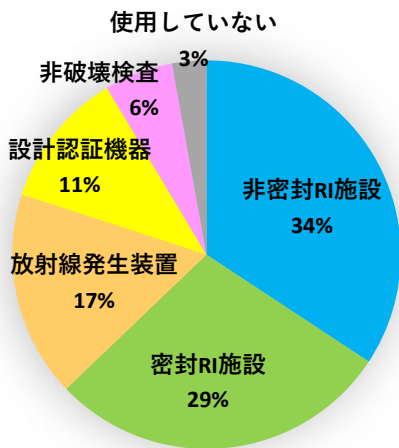


図4-3 施設

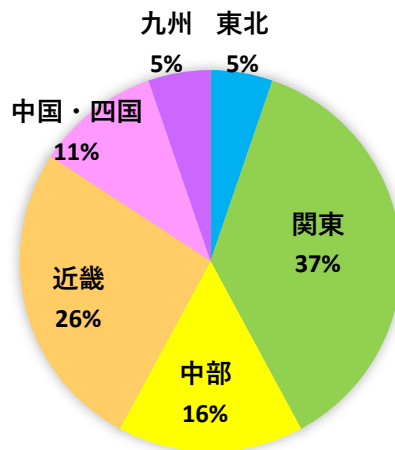


図4-4 所在地

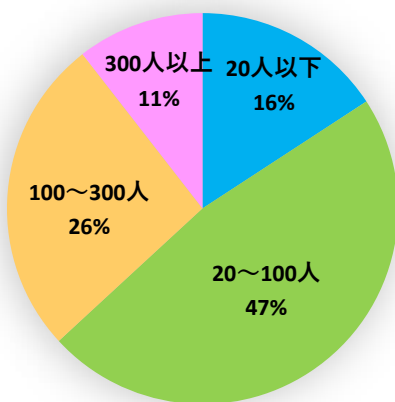


図4-5 放射線業務従事者数

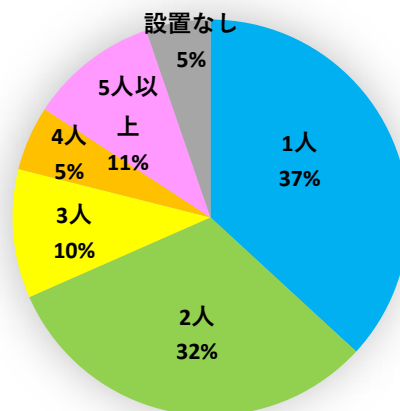


図4-6 選任主任者数

## おわりに

今回の年次大会は、久しぶりに現地開催が実現できました。オンライン開催時に取り入れた要旨集の PDF 配付、アンケートの WEB 回答、交流会の見合わせなど、コロナ感染症の予防に配慮しながらポストコロナの特色の出た開催であったように思います。アンケート回答からは、参加者の方から理解を示していただける、おおむね好評な結果でした。交流会の開催や要旨集の配付については次回以降の検討課題となりました。

末筆になりましたが、大会にご参加いただいた皆様、アンケートの回答にご協力いただきました皆様に、心よりお礼申し上げます。

(近藤真理)